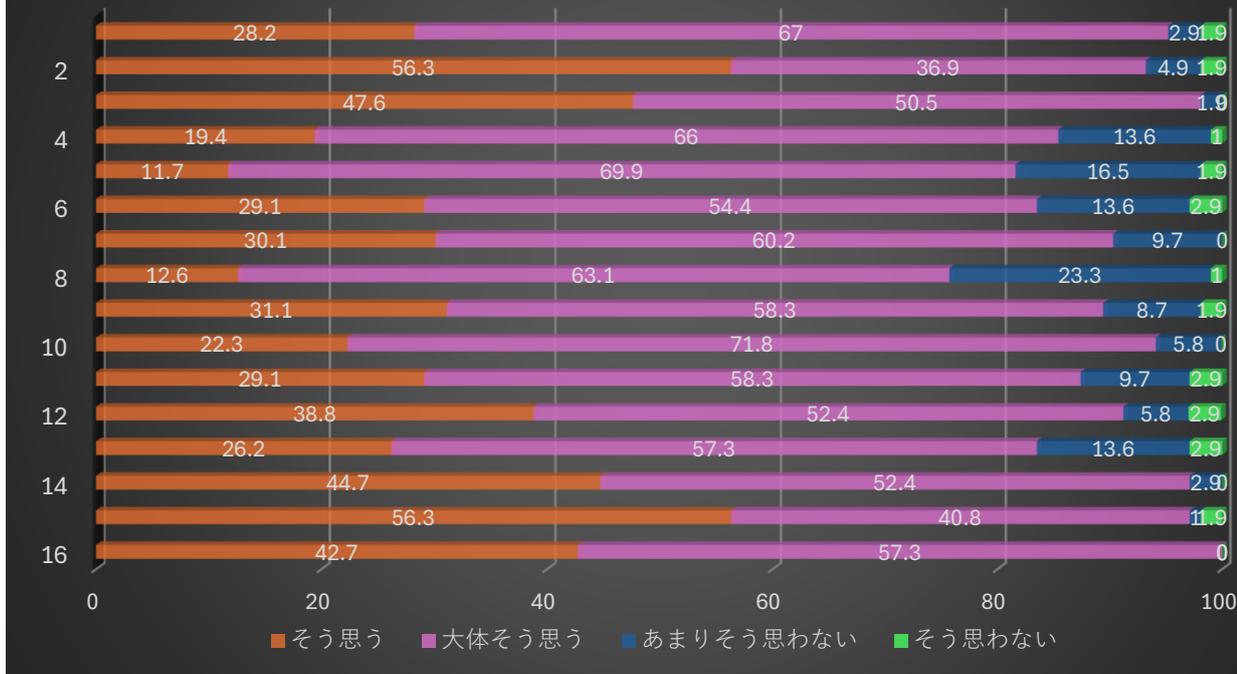


上谷の丘

「自分も他者も大切に、聞いて考え行動し、挫けずやり抜く子どもを育てる学校」

1月、上谷小学校の教育活動について第2回の保護者アンケートを実施しました。ご回答いただき、誠に感謝申し上げます。アンケート結果は以下のとおりです。皆様から頂いたご回答につきましては、これから、そして次年度の教育活動や学校運営の改善に向けて検討させていただきます。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和7年度後期保護者アンケートの結果



質問項目について

- 1 「私は、上谷小学校の教育に満足している。」
- 2 「子供は、学校に楽しく通っている。」
- 3 「子供は、自分も他者も大切にしている。」
- 4 「子供は、聞いて考え行動できている。」
- 5 「子供は、くじけずやり抜く姿勢が育っている。」
- 6 「子供は、お世話になっている人にあいさつをしている。」
- 7 「子供は、交通ルールを進んで守っている。」
- 8 「子供は、授業が「分かりやすい」と言っている。」
- 9 「子供は、学級を自分の居場所だと感じている。」

- 10 「子供は、ルールやマナーを理解し行動している。」
- 11 「先生は、子供の話をよく聞いてくれていると思う。」
- 12 「先生は、子供の良いところ認めてくれていると思う。」
- 13 「先生は、子供の困り感に寄り添ってくれていると思う。」
- 14 「学校は、保護者・地域住民と協力して環境整備・安全対策に取り組んでいると感じる。」
- 15 「学校は、開かれた学校づくりに努めていると感じる。」
- 16 「学校は、学年に応じた体験的な活動を取り入れている。」

【アンケート結果に係る改善策等について】

- 目指す学校像に係る項目3から5については、ポジティブ評価 100%を目指していましたが、現実的な目標数値として 85%を設定し、98.1%、85.4%、81.6%という結果でした。特に、未達であった項目5については、子供たちが「挫けずやり抜く」ことができるよう、次年度は見届けと励ましの言葉かけをより意識し、子供の活動のプロセスに対する支援をしていきます。
- 項目 6「あいさつ」については、円滑なコミュニケーションを図るうえで欠かせないものであり、日頃の教育活動や特別活動などを通して、その大切さに気付き、実践できるよう取り組んできました。また、「見守り隊感謝の会」や「給食感謝の会」など、感謝の念を育む機会を計画的に設定してきました。平素、子供たちに「あいさつ」の声かけをされているとは思いますが、子供たちの自発的な「あいさつ」を日常化していくためには、各ご家庭のご協力が欠かせません。今後ともご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。
- 項目 8「分かりやすい」授業について。上谷小では、ペアやグループで学び合う学習を進めています。従来の教師主導で進める授業とは形態が異なり、教師はファシリテーター(司会役)として、子供同士の対話を通して考えをつなぐ役割を担います。子供たちは、課題についての考えを主体的に聴き合い、教え合い、共に考えていきます。そして、一人一人に確かな学びが生まれる授業を目指しています。一方で、今回の調査では「わかりやすいと思わない」「あまりそう思わない」との回答が 4 人に 1 人いるという結果が出ました。次年度は、日課変更をする予定です。このことは先生の教材研究の時間を確保すること、子供が主体的に学習に向かえるような課題づくりに取り組むことをねらいとしています。今回の評価結果を真摯に受け止め、今後もよりよい授業づくりに取り組んでまいります。
- 項目13、子供の困り感に対し、本校の教職員は親身になって寄り添い、子供の成長につなげようと努めております。これからも、一人一人のよりよい成長につなげるため、子供の行動や態度の背景にある思いや困り感を理解しようとする、子供の言葉にならない思いをくみ取ろうとすること、そして、急がず共に考えていくことを大切に、安心感を与える支援に取り組んでまいります。一方で、寄り添うことは子供の先回りをして助けることではありません。失敗や試行錯誤も学びとして受け止め、子供が自分の力で乗り越えることを信じて待つことも、同じように重要であると考えています。子供の成長のために、今後も保護者の皆様とコミュニケーションを取り、連携しながら子供たちを支援していきたいと思っております。

「そう思う」「大体そう思う」の割合を合わせて85%に満たなかった項目について、記載しております。